

## 獨協医科大学外科専門研修プログラム 2025 年度

### 1. 獨協医科大学外科専門研修プログラムについて

獨協医科大学外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科）またはそれに準じた外科関連領域の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

### 2. 研修プログラムの施設群

獨協医科大学病院と連携施設（31施設）により専門研修施設群を構成します。

本専門研修施設群では103名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

#### 基幹施設

名称	都道府県	1:消化器外科, 2:心臓血管外科, 3:呼吸器外科, 4:小児外科, 5:乳腺内分泌外科, 6:その他（救急含む）	1. 統括責任者名 2. 統括副責任者名
獨協医科大学病院	栃木県	1, 2, 3, 4, 5, 6	1. 福田宏嗣 2. 千田雅之 2. 小嶋一幸 2. 青木琢 2. 水島恒和

## 連携施設一覧

獨協医科大学埼玉医療センター	埼玉県	2,3	戸田宏一
佐野厚生総合病院	栃木県	1,4,5,6	池田謙
社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院	埼玉県	1,2	加藤泰之
医療法人社団星野会 星野病院	栃木県	1	星野裕
静岡赤十字病院	静岡県	1,2,3,4,5,6	熱田幸司
独立行政法人国立病院機構栃木医療センター	栃木県	1,3,5,6	鈴木慶一
芳賀赤十字病院	栃木県	1	俵藤正信
医療法人三省会 堀江病院	群馬県	1	高良大介
KKR 札幌医療センター	北海道	1,2,3,5	今裕史
独立行政法人国立病院機構宇都宮病院	栃木県	1,3,5,6,	増田典弘
佐野医師会病院	栃木県	1,2	難波美津雄
前橋赤十字病院	群馬県	1,2,3,4,5,6	上吉原光宏
埼玉県立循環器・呼吸器病センター	埼玉県	1,2,3	原正幸
上都賀厚生農業協同組合連合会 上都賀総合病院	栃木県	1,5,6	佐野涉
足利赤十字病院	栃木県	1,2,3,5,6	戸倉英之
独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京高輪病院	東京都	1,4,5	黒川敏昭
栃木県立がんセンター	栃木県	1,5	松下尚之
那須赤十字病院	栃木県	1,4,5	田村光
社会福祉法人恩賜財団済生会支部 栃木県済生会宇都宮病院	栃木県	1,2,3,4,5,6	篠崎浩治
群馬県立心臓血管センター	群馬県	2	江連雅彦
友愛記念病院	茨城県	1,3,4,5	加藤奨一

南那須地区広域行政事務組合立那須南病院	栃木県	1	森和亮
一般財団法人脳神経疾患研究所 附属総合南東北病院	福島県	1,2,3,5	伊藤広晃
東京医科大学茨城医療センター	茨城県	1,3,5,6	鈴木修司
社会医療法人壮幸会 行田総合病院	埼玉県	1	畠達夫
社会医療法人 中山会宇都宮記念病院	栃木県	1 3 5 6	谷澤武久
獨協医科大学外科日光医療センター	栃木県	1,2,5	山口悟
さくらがわ地域医療センター	茨城県	1,5,6	佐々木欣郎
とちぎメディカルセンター しもつが	栃木県	1,5,6	小泉大
社会医療法人恒貴会 協和中央病院	茨城県	1.6	佐藤直毅
群馬県立小児医療センター	群馬県	4	西明

専門研修指導医は 103 名であり、本年度の募集する専攻医数は 14 名です。

### 3. 外科専門研修について

1) 外科専門医は初期臨床研修修了後、3年間の専門研修で育成されます。基幹施設（6カ月以上）、連携施設（6カ月以上）で3年間の研修を行います。

- ▶ 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- ▶ 専門研修期間中に大学院へ進むことも可能です。各専門研修コースの指導医と相談の上、専門研修を行いながら臨床研究、基礎研究(基礎研究専任となる期間は6ヶ月以内)を進めることも可能です。
- ▶ サブスペシャリティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医資格を習得した年の年度初めに遡ってサブスペシャリティ領域専門研修の開始と認められる場合があります。

- 研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要です。(専攻医研修マニュアル-経験目標 2-を参照)
- 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例(NCDに登録されていることが必須)は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができます(ただし加算症例は100例を上限とします)。

## 2) 年次毎の専門研修計画

- 専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。
- 専門研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に行われるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。また、基幹施設におけるチーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。
- 専門研修3年目では、2年目同様、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます

獨協医科大学外科専門研修プログラムでは、以下の6つのコースを準備しています。各コースを選択した場合の研修計画の概略を提示しますが、これは一例であり、獨協医科大学外科専門研修プログラム管理委員会と相談の上、各専攻医の希望を反映した内容に変更することができるように配慮します。また、各研修コースの説明の下に、3年間の施設群ローテーションにおける研修内容と予想される経験症例数を下記に示します。どのコースであっても内容と経験症例数に偏り、不公平がないように十分配慮します。

#### ①一般外科コース

まだサブスペシャリティーを決めていない方向けです。すべての領域を広く研修することが可能です。

#### ②消化器外科コース

消化器外科医を希望される方のための重点コースです。

3年間の中で大学病院と連携病院で専門医取得に必要な手術症例数を経験して頂きます。

- ・ 獨協医科大学では上部消化管/下部消化管/肝胆膵/心臓・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌をローテーションしていただき手術研修をしていただきます。
- ・ 連携病院のいずれかで消化器外科研修を行います。

#### ③心臓・血管外科コース

心臓・血管外科入局を志望される方のための重点コースです。

- ・ 専門研修 1 年目  
主に獨協医科大学心臓・血管外科に所属し外科の基本研修を行います。  
経験症例 100 例/1 年以上 （術者 20 例/1 年以上）
- ・ 専門研修 2 年目  
原則として獨協医科大学病院、連携病院のいずれかで他の領域の研修を行います。  
経験症例 150 例/1 年以上 （術者 80 例/1 年以上）
- ・ 専門研修 3 年目  
主に獨協医科大学心臓・血管外科に所属し心臓・血管外科の研修を行います。  
経験症例 100 例/1 年以上 （術者 20 例/1 年以上）

#### ④呼吸器外科コース

呼吸器外科入局を希望される方のための重点コースです。

- ・ 専門研修 1 年目  
主に獨協医科大学呼吸器外科に所属し外科の基本研修を行います。  
経験症例 100 例/1 年以上 （術者 20 例/1 年以上）
- ・ 専門研修 2 年目  
連携病院のいずれかで消化器外科の研修を行います。  
経験症例 150 例/1 年以上 （術者 80 例/1 年以上）
- ・ 専門研修 3 年目

獨協医科大学病院で呼吸器外科の研修を行います。  
 経験症例 100 例/1 年以上 (術者 20 例/1 年以上)

⑤小児外科コース

小児外科医を目指す方のための重点コースです。  
 基本的には3年間のうちに外科専攻医の症例数を充足してもらうことが、  
 第一の目標になります。  
 手術経験 (術者または助手) 症例 350 例/3 年 術者経験 120 例/3 年  
 (領域別症例数も充足すること)  
 4 年目 (専攻医 2 年目) の後半 (多少の時期の変動はある) に半年間  
 小児外科重点研修を行います。  
 6 年目以降に外科専攻医の不足症例が持ち越しにならないようにして、  
 6-8 年目の 3 年間で小児外科専門医取得を目指します。

⑤乳腺外科コース

乳腺外科医を目指す方のための重点コースです。  
 専門研修 1 年目：獨協医科大学で、外科専門医取得に必要な消化器外科、心  
 臓・血管外科、呼吸器外科、小児外科をローテーションし、外科研修を行  
 います。  
 専門研修 2 年目：獨協医科大学乳腺科医師として手術、外来、病棟管理を行  
 います。  
 専門研修 3 年目：乳腺症例が豊富な連携病院で、外科研修を行います。  
 また、獨協医科大学乳腺外科専門医プログラムと連動した研修が可能です。

3) 研修の週間計画および年間計画

基幹施設 (獨協医科大学病院下部消化管外科外科例)

	月	火	水	木	金	土	日
7:50-8:30 朝カンファレンス							
8:30-17:00 病棟業務							
9:00-12:00 外来							
9:00- 手術							

連携施設（済生会宇都宮病院例）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30 抄読会、勉強会							
7:00-8:30 術前カンファレンス							
8:30-9:30 病棟回診							
7:30-9:30 科長回診							
9:00- 手術							
7:30-8:30 手術症例カンファレンス							
8:00-8:45 Cancer Board							
8:00-8:45 消化器内視鏡カンファレンス							

研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール

月	全体行事予定
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外科専門研修開始。専攻医および指導医に提出用資料の配布（日本外科学会ホームページ）</li> <li>・日本外科学会参加（可能であれば発表）</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修修了者：専門医認定審査申請・提出</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門研修プログラム管理委員会(第1回)開催</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床外科学会参加（発表）</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門研修プログラム管理委員会(第2回)開催</li> <li>・獨協医科大学外科専門研修プログラム発表会(仮称)開催</li> <li>・専攻医：研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成（年次報告）（日本外科学会HP上で作成）</li> <li>・専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成（日本外科学会HP上で作成）</li> <li>・指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成（日本外科学会HP上で作成）</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その年度の研修終了</li> <li>・専攻医：その年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出（日本外科学会 HP 上で作成）</li> <li>・指導医・指導責任者：前年度の指導実績報告用紙の提出</li> <li>・研修プログラム管理委員会開催</li> </ul>

4. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

- 専攻医研修マニュアルの到達目標 1（専門知識）、到達目標 2（専門技能）、到達目標 3（学問的姿勢）、到達目標 4（倫理性、社会性など）を参照してください。

## 5. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

- 基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。
- Cancer Board：複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。
- 基幹施設と連携施設による症例検討会：各施設の専攻医や若手専門医による研修発表会を毎年2月に大学内の施設を用いて行い、発表内容、スライド資料の良否、発表態度などについて指導的立場の医師や同僚・後輩から質問を受けて討論を行います。
- 研修各科において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。
- 大動物を用いたトレーニング設備や教育DVDなどを用いて積極的に手術手技を学びます。
- 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。
- 獨協医科大学病院では、医療倫理や医療安全、感染対策、ハラスメント対策などに関する講習会が定期的に行われています。専攻医はこれらの講習会に出席、規定の単位を取得することを必須とします。

## 6. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらにえられた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

- 日本外科学会定期学術集会に1回以上参加

- 指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表
- 栃木県総合医学会での発表、地方研究会での発表など、栃木県で開催される勉学の場に積極的に参加

7. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

- 1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナルリズム）
  - 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。
- 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
  - 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指します。
  - 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。
- 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
  - 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。
- 4) チーム医療の一員として行動すること
  - チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
  - 的確なコンサルテーションを実践します。
  - 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。
- 5) 後輩医師に教育・指導を行うこと
  - 自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。
- 6) 保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること
  - 健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
  - 医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
  - 診断書、証明書が記載できます。

## 8. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

### 1) 施設群による研修

本研修プログラムでは獨協医科大学病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成してします。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。大学だけの研修では稀な疾患や治療困難例が中心となり common diseases の経験が不十分となります。この点、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します。このような理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことが非常に大切です。獨協医科大学外科研修プログラムのどのコースに進んでも指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、獨協医科大学外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

### 2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアル-経験目標 3-参照）

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- ▶ 本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。
- ▶ 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。
- ▶ 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

## 9. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI-参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立

して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。また、年度末の評価に加え、所属・在籍病院が変わる際には評価表/実績記録を提出していただき、中間評価を行うようにします。専攻医研修マニュアルVIを参照してください。

#### 10. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である獨協医科大学病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。獨協大学外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、事務局代表者、外科5科（上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

#### 11. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルズに配慮します。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

#### 12. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

#### 13. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件 専攻医研修マニュアルVIIIを参照してください。

#### 1 4. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

##### 研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録）を用いて、専攻医は研修実績（NCD登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。

獨協医科大学外科にて、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

- 専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

- 指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

- 専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録します。

- 指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

#### 1 5. 専攻医の採用と修了

##### 応募方法(予定)

獨協医科大学外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行い、外科専攻医を募集します。2026年度プログラムへの応募者は、2025年11月1日から11月14日(予定、一次登録)、2025年12月1日から12月14日(予定、二次登録)までに研修プログラム責任者または獨協医科大学病院臨床研修センター宛に募集要項に従い下記応募書類を提出すること。

- ・応募願書
- ・履歴書
- ・健康診断書
- ・医師免許証の写し
- ・臨床研修修了見込証明書(または臨床研修修了登録証の写し)

なお、募集要項及び応募書類は下記のいずれの方法でも入手可能です。

(1) 獨協医科大学病院臨床研修センターの website

(<https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/recruit/6>)

(2) 獨協医科大学外科の website

(<https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/4geka/training/index.html>)

(3) 電話で問い合わせ(0282-87-2417)

#### 選考方法(予定)

(一次登録)2025年11月15日から11月18日までを採用確認、調整期間とし、11月18日から11月27日までの期間に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知(採用内定通知)します。

(二次登録)2025年12月15日から12月17日までを採用確認、調整期間とし、12月17日から12月24日までの期間に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知(採用内定通知)します。

一次登録の応募者および選考結果については12月の獨協医科大学外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

#### 研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会 HP 上のファイルに入力します。

- ・ 専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
- ・ 専攻医の履歴書(様式15-3号)
- ・ 専攻医の初期研修修了証

#### 修了要件

専攻医研修マニュアル参照

2025年5月 更新